

弘法大師の十大弟子

唐の青龍寺から帰国し、その後空海が高雄山寺にとどまっていた頃から、噂を聞きつけて弟子たちが集まるようになった。後に十大弟子と呼ばれる人たちである。

●空海教団の船出

高雄山寺に入った空海のもとには、空海の姉の子智泉や故郷の讃岐から駆けつけてきたという実慧が、早くも弟子として側に仕えていた。その後、最澄が空海から密教の教えを請うたという噂は仏教界に広まり、東大寺にいた果隣、平城上皇の子の真如らが空海の弟子に連なった。最澄の弟子だった泰範もまた高雄山寺にそのままとどまり、ついに空海の弟子になったことは、事実である。さらに空海の実弟である真雅もまた高雄山寺に駆けつけた。

これらの弟子たちは、いずれも後の空海の教団づくりの中心になるべき人物である。空海は高雄山寺の運営を任せるべく、弟子たちにそれぞれの役割を与えた。規模は小さかったが、空海の教団がこうしてスタートした。

●後継者の二つの流れ

空海のもとにはそれからも続々と優秀な人材が集まってきた。後に十大弟子と呼ばれる人たちがこうして揃っていくのである。

ところで、空海の弟子には大きく2つの流れがある。一つは空海の血縁であり、先の智泉、真雅、そして空海の甥である真然などが上げられる。

もう一つは空海の血縁以外の者で、泰範や真如のほか、果隣、真濟、円明、忠延ら仏伝仏教である顕教から転じてきた者が含まれる。

空海はこれら弟子たちひとりひとりの資質をよくみきわめていた。そのうえで、身内ならではのひたむきさを評価して高野山の後継者に真然、その徳の高さを評価して東寺の後継者に実慧、そのほかの弟子にも適材適所ともいえる役目をそれぞれに与えている。



空海の十大弟子

真濟 (しんぜい) その器量を空海に愛され、二十五歳で伝法阿闍梨になる

智泉 (ちせん) 空海の甥 (空海の身内)

平城天皇の子で、名を高岳親王といった。薬子の変で皇太子の地位を追われ出家。空海の弟子になる。インドを目指したが、途中で客死。絵の空海像は真如の筆から始まったという

真如 (しんじょ)

平城天皇の子で、名を高岳親王といった。薬子の変で皇太子の地位を追われ出家。空海の弟子になる。インドを目指したが、途中で客死。絵の空海像は真如の筆から始まったという

真雅 (しんが) 空海の実弟 (空海の身内)

空海の実弟。9歳で高雄山寺の空海のもとに駆けつける。東寺長者になる。法光大師

真然 (しんぜん) 空海の子 (空海の身内)

空海の子。空海入定以来高野山の経営に努め、金剛峯寺座主となる

道雄 (どうゆう)

東大寺の僧だったが空海に師事。後に海印寺を開創し、真言華嚴兼学の寺とする

果隣 (ごりん)

もと東大寺の僧。伊豆に修禪寺を開く

円明 (えんめい)

もと東大寺の僧。空海に師事し、後に東大寺21代別当職を務める

忠延 (ちゅうえん)

もと高雄山寺の僧。空海に師事し、東寺などで密教宣布に努める

実慧 (じつえ)

讃岐出身。高野山の開創に努め、空海の跡を継いで2世東寺長者となる。道興大師

泰範 (たいはん)

最澄が後継者として見込んでいた弟子で比叡山の総別当だったが、高雄山寺にとどまるうち、次第に空海に傾倒し弟子入りする。高野山の開創に努める。晩年改名したという



神護寺は、京都市右京区高野にある高野山真言宗遺迹本山の寺院で、山号を高雄山と号する。本尊は薬師如来、開基は和氣清麻呂である。真言宗祖弘法大師空海さんが唐帰朝後入山、十四年間住持し真言宗立教の基礎を築いた名刹、そして錦秋の紅葉の名所高野山神護寺です。